

日高山脈襟裳国定公園の国立公園指定に関する要望の趣旨

令和6年2月1日

日高山脈襟裳国定公園の国立公園指定に関し、日高・十勝関係自治体の総意として要望書を提出しておりますが、それに加え、十勝の関係6市町村の名称に関する思いをお伝えするものであります。

記

日高山脈の東麓に抱かれた十勝平野では、日高山脈の恵みを受けた豊かな自然のもと大規模農業が展開され、自然と人の営みが共生する様は、十勝の人々にとっての日常であり、十勝らしい魅力のひとつともなっています。

この原風景を構成する日高山脈及びその周辺地域が、「十勝」の名を冠する国立公園となることは、十勝の人々が、その価値を改めて認識する契機となり、かけがえない財産を次世代へ引き継いでいく意識が一層高まるものであります。

手つかずの自然。新たな国立公園の最大の特徴であり、魅力です。私たち6市町村は、国立公園の指定を機にこれをしっかりと守り、さらに価値を高めてまいりたいと考えております。

このため、希少動植物の保護や携帯トイレの利用などのマナー啓発、クマよけスプレーやGPS発信機の貸し出しなどによるヒグマ対策や遭難防止対策、さらには、登山道の草刈や避難小屋の手入れ、登山口への簡易トイレの設置や登山道の整備など、国立公園及びその周辺の保全管理について、地域における意識醸成をはかりながら、皆さんと一緒に取り組んでまいります。

また、日高山脈は、その急峻な地形が故に登山などの直接的な利用が限定される一方で、十勝平野から眺める山並みは雄大であります。こうした特色を活かしたアドベンチャー旅行や周遊観光など、国立公園の魅力向上が期待されるものであり、国立公園区域外の利用拠点等とも連携した新たなツアーの造成やPR活動に取り組んでまいります。

以上のとおり、新たな国立公園の名称を「日高山脈襟裳十勝国立公園」とすることは、環境保全と観光利用が調和した国立公園を育み、日高・十勝の両地域の発展に資するものと確信しております。

帯広市長 米沢 則寿

清水町長 阿部 一男

芽室町長 手島 旭

中札内村長 森田 匡彦

大樹町長 黒川 豊

広尾町長 村瀬 優